2013 年 1 月 1 日

青森大学・短期大学ニュース No.23

地域とともに生きる大学へ

学長　崎谷康文

はじめに

平成 25 年の新春を迎えた。青森大学の再興と新生に向けて新たな気持ちで様々な課題に取り組んでいきたい。昨年 4 月に学長に就任して以来、すべての教職員、そして学生のみなさんに支えられながら、「青森大学ルネッサンス」を進めてきた。「青森大学ルネッサンス」を進めていくには、一人ひとりが最大限に力を発揮しつつ一致協力する必要があり、今、最も重要なことは、青森大学が「地域とともに生きる大学」へ向けて努力することであると考える。「地域とともに生きる大学」について、私の考えを述べたい。

建学の精神

青森大学は、昭和 43 年に設立され、今年は 46 年目である。設立当初は、経営学部のみであったが、今や、社会学部、ソフトウェア情報学部、薬学部を加え、文系、理系の４学部の総合大学である。

青森大学の設置者は、学校法人青森山田学園である。学園の前身は大正 7 年に発足した山田きみ裁縫教授所である。山田きみ裁縫教授所は、教育の理念として、「誠実、勤勉、純潔、明朗」を掲げ、地域の子弟、特に女性に対し、手に職を付けさせるとともに、自立して地域社会で生きることができる力を付けさせるための教育を行った。

その後、昭和 23 年に青森山田高等学校が開設され、昭和 37 年に青森短期大学が設立された。そして、青森大学が設立されたのは、第二次世界大戦後のベビーブーム世代が次々に高校を卒業し、大学への進学率が上昇している頃である昭和 43 年であり、地域の期待に応えて、青森県を中心として若者を大学に受け入れ、青森県をはじめとする我が国の科学技術の進展や経済の発展に貢献できる人材を育てていこうとする考えが基本にあったからであると言える。

青森山田学園が設置してきたすべての学校（大学を含む。）を貫く建学の精神が地域の子弟を受け入れ育て、社会に有為の人材を送り出すことであることは、疑いがない。およそ私学は建学の精神を持ち独自の校風を育てており、青森山田学園全体そして青森大学にとって、「地域とともに生きる」ことが原点である。

青森大学の使命と基本理念

青森大学学則の第１条は、青森大学の目的を示している。第１条第１項は、「本大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、学術の理論と応用を教授研究して、有能にして良識ある人材を育成し、文化の発展並びに人類の福祉に貢献するとともに、地域社会の向上に資することを目的とする。」と定めている。この規定を整理してみると、①教育基本法と学校教育法に基づくということが大前提としてあり、②学術の理論と応用を教授研究すること、そして、そのような教授研究の活動を通じて、有

能で良識ある人材を育成することが、大学が行うべき活動であって、③そのような活動によって、文化の発展並びに人類の福祉に貢献することと、地域社会の向上に資することという目的を達成しなければならないことが規定されていると言えよう。

また、青森大学の開設時に示された、経営学部の理念は、①中小企業を対象に、経営の近代化を目指し研究調査と教育指導を行う、②中小企業の発展に寄与する人材を育成する、③地域企業と連携を強化し、地域の産業発展に貢献する、という３点に要約されるが、この経営学部の理念からも、青森大学が地域社会と密接な連携を図り、地域社会の発展に貢献すべき使命を有することが明確である。

教育基本法第７条第１項は、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探求して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と規定している。青森大学の学則において、広く「社会」とせず、「地域社会の向上に資する」と定めていることは、建学の精神を踏まえた青森大学の使命を明確にする意図によると考えられる。

平成２４年１２月７日付で、青森大学学則の第１条に次のような第３項を加え、青森大学の基本理念を明示した。

３ 本大学の基本理念は、次に掲げるとおりとする。

１ 青森の豊かな自然と文化の中で人間性と確かな教養を培い、社会に役立つ基礎学力、技術及び専門知識を身に付けさせるための実践的な教育を行う。

２ 教員と学生の親密なコミュニケーションを通じて、教員が個々の学生の能力を十分に引き出すための親身な指導を行う。

３ 大学の知的財産を活用することにより地域への社会貢献を行うとともに、地域との親密な交流を通じて地域から愛される大学となることを目指す。

基本理念においても、青森大学が、青森の豊かな自然と文化の中で、教員の親身な指導により、社会に役立つ実践的能力を身に付けた学生を育てるとともに、地域への社会貢献を行い、地域との親密な交流を通じて「地域から愛される大学」を目指すことを明確にしている。「青森の豊かな自然と文化の中で」との文言には、青森大学の周りの様々な環境や資源を教育研究に生かそうとする考えが込められている。

大学大衆化の時代における地方私立大学の役割

米国の教育社会学者マーチン・トロウは、高等教育の該当教育年齢の在学率が１５％まではエリート段階、１５％から５０％まではマス段階、５０％を超えるとユニバーサル段階と推移し、教育課程、選抜の仕方などが質的に異なっていくと論じた。我が国の大学・短期大学への進学率は５０％を超え、大衆化時代を迎えている。平成２４年度の高等学校卒業者の大学等への進学率は、全国平均で５３．５％である。都道府県別に見ると、北海道及び東北６県はすべて５０％以下であり、青森県は４１．２％である。すなわち、高等教育がユニバーサル段階であると言っても、東京、京都、大阪など大都会を有する地域の進学率が高いからであって、多くの地方では、まだ進学率が高いとは言えない状況にある。

我が国がこれからさらに発展し、国力を高めていくためには、大都市への集中ではなく、むしろ地方から特色のある様々な産業や文化の活動が発信されるようになる必要がある。そのためにも、大学には、地域社会と密接な連携を保ちながら、地域社会の中における教育研究活動、社会貢献活動を通

じて、地域社会の活性化と発展を担う大きな役割を果たすことが求められる。

このような視点に立ってみると、青森大学は、大きな可能性を持っている。青森大学は、青森県を中心に東北、北海道から多数の学生を受け入れており、卒業後も出身の道県へ就職する者が多い。大学等への進学率が低い地域に立地していることについては、進学率向上の余地があると肯定的にとらえる必要がある。そして、高校生等には、大学で学ぶことによって、将来社会で活躍する可能性が広がっていくことを強く訴えていくべきである。また、地域社会への貢献のため、高齢者を含めた多くの社会人に対し大学で学ぶ機会を提供していくことがますます必要となる。加えて、青森大学の知的資源を大いに活用して、地域社会の文化、産業、生活などの向上につながる活動を充実させ、青森大学が地域の発展にとってなくてはならない存在と認められ信頼されていくようにしなければならない。

平成 17 年 1 月の中教審答申「我が国における高等教育の将来像」は、高等教育機関のうち，大学は，全体として 、世界的研究・教育拠点、高度専門職業人養成、幅広い職業人養成、総合的教養教育、特定の専門的分野(芸術，体育等)の教育・研究、地域の生涯学習機会の拠点、社会貢献機能(地域貢献，産学官連携，国際交流等）等の各種の機能を併有しており、今後、各々の大学は，自らの選択に基づき，これらの機能のすべてではなく、一部分のみを保有しつつ、緩やかに機能別に分化すると述べている。大学大衆化の時代にあっては、すべての大学が同じことを目指すのではなく、緩やかに機能別分化をすることが望ましいということである。

青森大学は、薬学部の高度専門職業人育成、その他の学部の幅広い職業人養成、社会貢献機能、地域の生涯学習の拠点などを中心とする機能を果たしてきているし、これからもそのような機能を強化していくことになる。

大学改革実行プランとセンターオブコミュニティ

昨年（平成 24 年）6 月、平野博文文部科学大臣は、「大学改革実行プラン」を発表した。現在、これが文部科学省の大学政策の最も基本的な政策文書である。

平野大臣は、目指すべき新しい大学像として、

・学生がしっかり学び、自らの人生と社会の未来を主体的に切り拓く能力を培う大学

・グローバル化の中で世界的な存在感を発揮する大学

・世界的な研究成果やイノベーションを創出する大学

・地域再生の核となる大学

・生涯学習の拠点となる大学

・社会の知的基盤としての役割を果たす大学

を示した。地方の私立大学としての青森大学は、これらのうち、学生がしっかり学び、自らの人生と社会の未来を主体的に切り拓く能力を培う大学、地域再生の核となる大学、生涯学習の拠点となる大学、社会の知的基盤としての役割を果たす大学を目指すべきであると考える。そのうち、最も重要な目標が地域再生の核となる大学である。

平野大臣は、地域再生の核となる大学づくりをＣＯＣ構想の推進と呼んでいる。ＣＯＣとは、センターオブコミュニティということである。ＣＯＣ構想の推進のための施策として、次のような課題が示されている。

・ 地域（社会・産業・行政）と大学との組織的な連携強化
（地域課題等の解決のための、地域の大学間連携、地域の枠を越えた大学間連携）
・ 大学の生涯学習機能の強化
・ 地域のイノベーション創出人材の育成
・ 地域の雇用創造、産業振興への貢献
・ 地域の課題解決への貢献
・ 多様な活動を支える教育・研究水準の保証

現在、文部科学省が財務省に提出している平成 25 年度予算の概算要求において、センターオブコミュニティ構想を推進する大学を支援するための事業が組み込まれている。地方の私立大学は、ただ待っていれば支援を受け入れることができるのでは決してない。自ら体制を整え努力していることを示すことができる大学のみが支援を受けることができることは、銘記しておかなければならない。

青森大学地域貢献委員会の設置と地域貢献センターの発足

昨年10月の部長会において、青森大学地域貢献委員会を設置することを決め、併せて、地域貢献センターを発足させることとした。12月21日に、第一回の青森大学地域貢献委員会を開催し、同日付けで、青森大学地域貢献センターを発足させた。

地域貢献委員会は、青森大学が地域とともに生きる大学を目指して行う活動を推進していくための方針を示すための機関である。学長が委員長であり、青森大学の地域貢献に関する様々な活動について審議する機関である。地域貢献委員会は、地域社会と連携して行う教育研究に関すること、産学連携その他地域の団体、企業等と連携して行う教育研究に関すること、高大連携その他高等学校等と連携して行う教育研究に関すること、オープンカレッジ、生涯学習講座その他生涯学習活動に関すること、図書館その他大学施設の開放に関すること、社会人特別入試、科目等履修生の受入れその他社会人の受入れに関すること、付属総合研究所が行う地域貢献に資する研究等に関すること、地域貢献センターに関することなど、青森大学における地域貢献のための活動に関することについて審議する。例示されている個々の活動は、それぞれの部署等において具体的な計画を作り実施していく責任があるが、それらの実施状況等を掌握し、地域貢献の活動全般について方向付けを行うのが、地域貢献委員会の役割である。

地域貢献センターは、地域貢献委員会の目的を円滑かつ適切に達成するために設置した、常設の機関である。 地域貢献センターの業務は、青森大学における地域貢献のための活動についての総合的な企画及び調整に関すること、及び青森大学における地域貢献のための活動についての内外からの相談、問合せ等に応じ、助言し支援することである。地域貢献センターのセンター長は、柏谷至社会学部社会学科長であり、事務局は、教務課が担当する。地域貢献センターは、青森大学が行っている多様な地域貢献のための活動について、大学内外の調整、相談等の窓口としての機能を的確に果たすことが期待されている。

地域貢献活動の充実・活性化へ向けて

青森大学は、長年、生涯教育を目的とした公開講座「オープンカレッジ」を開催し、「出張講義」を開講して、各方面に講師を派遣するなど、地域社会の人々のニーズを踏まえ、大学の知的資源を生か

した社会貢献の活動を行ってきている。また、青森大学は、青森の県庁所在地である青森市にある唯一の総合大学であるから、青森県や青森市の各種委員会に多数の委員を派遣し、地域の発展に尽力している。

各学部の教育研究において、教員や学生が地域の団体や企業、学校等に出向いて協力して活動を行うことなどは、既に頻繁になされているが、今後は、このような地域社会との連携協力活動について、事前の打ち合わせから具体的な実施とその成果の確認、そして次への展開というように、相互の交流を一段と深めながら計画的・体系的に実施していくことが必要となる。平成 25 年度からの青森大学基礎スタンダードの導入に伴う教育内容と教育方法の改革に当たっては、学生がこれまで以上に能動的に学ぶように指導することが求められている。学生の主体的な学修を進めていくために、ボランティアなどの形で、学生が地域社会へ関わっていく活動を工夫することも有効であると考えられる。

地域貢献のための活動について、青森大学としては、地方公共団体、ＮＰＯその他の民間の団体などとできるだけ総合的・継続的に協力できる関係を築いていきたい。

青森大学が地域社会とともに生きる大学へ脱皮していくためには、教職員すべてが改めて我が大学の本来の使命を強く自覚して、大学全体としての協力体制を整え、地域貢献のための活動の充実と活性化を推進していくことが必要である。

青森大学が地域に根差す大学としての活動を充実させ、地域再生の中心となって大学の魅力を高めていくことにより、地域社会の人々から信頼され、支えられていくよう、皆様とともに、全力で取り組んでいきたいと考えている。

次に掲げるのは、「教育プロ　平成 24 年 10 月 2 日号」に掲載した「時評」である。ご参考になれば幸いである。

［時評］

地域とともに生きる大学

米国の教育社会学者のマーチン・トロウは、「高学歴社会の教育―エリートからマスへ」において、高等教育の該当教育年齢の在学率が15％まではエリート段階、15％から50％まではマス段階、50％を超えるとユニバーサル段階と推移し、教育課程、選抜の仕方などが質的に異なっていくと論じた。我が国の大学・短期大学への進学率は50％を超え、大衆化時代を迎えている。

平野博文文部科学大臣は、平成 24 年 6 月 4 日、政府の国家戦略会議において、教育改革の方針を総括的に説明した。平野大臣は、大学について、入試改革、大学の教育機能の再構築とミスマッチ解消、国立大学のミッション再定義と重点支援、学生の75％を占める私学の質的充実に向け支援・メリハリある配分、世界で戦える「リサーチ・ユニバーシティ」の倍増、地域再生の拠点としての大学の機能強化などが重要と説明した。

4月の会議では、民間議員から、学制の見直し、大学の統廃合、国立大学運営費交付金や私学助成の配分の強化などの指摘があり、その時は、平野大臣が、六三三制の学制は定着していること、統廃合で地域から大学をなくすとの発想ではなく、大学の教育研究能力を高め人材の質を高める努力こそが必要であり、取組みが不十分な大学が結果として淘汰されたとしても、統廃合自体を目的とする政策の推進はできないと反論した。しかし、それでは不十分で、明確な政策を打ち出す必要があった。

6月5日、平野大臣は、「大学改革実行プラン」を発表した。この政策文書は、大学政策の基本方針である「大

学ビジョン」を今年度中に策定するとし、激しく変化する社会における大学の機能の再構築と、大学の機能の再構築のための大学ガバナンスの充実・強化が大きく二つの課題であるとする。大学の機能の再構築のため、①大学教育の質的転換、大学入試改革、②グローバル化に対応した人材育成、③地域再生の核となる大学づくり(COC (Center of Community)構想の推進)及び④研究力強化(世界的な研究成果とイノベーションの創出)を進めることを示している。大学ガバナンスの充実・強化のためには、⑤国立大学改革、⑥大学改革を促すシステム・基盤整備、⑦財政基盤の確立とメリハリある資金配分の実施【私学助成の改善・充実～私立大学の質の促進・向上を目指して～】、⑧大学の質保証の徹底推進【私立大学の質保証の徹底推進と確立(教学・経営の両面から)】を行うとしている。

大学の COC (Center of Community)機能を強化するとの方針を文部科学省が示したことに注目したい。

私立大学は、600校近くにまで増加した。入学定員が800人以上の158校の私立大学は、交通至便な都市部に多く、27，693名の定員超過である。入学定員が800人未満の私立大学は、全私立大学の73％の419校で、計8，591名分の定員割れである。地方私立大学は、ベビーブーム世代が大学に進学する昭和40年代頃から増えてきた。我が国の大学政策は、国際社会に通用する教育研究水準の維持向上のため、国立大学の整備充実を重点とし、増大する大学進学希望者の受入れは、私立大学の拡充に依存してきた。私学助成の仕組みはできたが、補助金額は依然として少なく補助率は低い。その間、18歳人口の減少などのため、多くの地方私立大学は、建学の理念―多くは、地域社会との連携に関すること―を生かすことが困難となった。

センターオブコミュニティの考え方は、地方私立大学が地域社会の現実的な課題の解決に取り組むことで、大学の教育研究がより現実的な課題を直視するものになり地域社会の大学への理解が進むこと、フィールドワーク等を通じ学生が社会の現実の課題解決に参加することで、実践力を育成し学修の意欲を刺激すること、大学の連携により、様々な資源が有機的に結合し問題解決に向け教育研究活動が活性化することが有意義で効果的とする。

6月23日の朝日新聞の「大学改革ー減らせばよくなるのか」と題する社説は、国家戦略会議で、企業経営者や閣僚が、大学が増え学生の質が下がったので、競争と予算配分で淘汰して校数が減り大学進学率が下がってもよいとの主張をしたことに、反論している。社説は、日本の学生が授業以外に勉強する時間が少ない、新卒の3割が3年以内に離職するなどの問題は分かるが、大学の淘汰や統廃合により、都会と地方の格差が広がり、体力のない地方の小さい私大からつぶれるとする。そして、地方の裕福でない家庭の子は進学の機会を奪われると言う。日本の大学進学率は先進国の中でも低く、大学教育への公費負担の割合も低く、下から切り捨てれば、人材の層がますます薄くなると、警告する。

国家戦略会議は、平成24年7月31日、「日本再生戦略」を決定した。「日本再生戦略」が示した11の分野の成長戦略のうち、「人材育成戦略」と「国土・地域活力戦略」は、本年度中の大学ビジョンの策定、地域再生の拠点としての大学の機能強化の推進、人口減少社会の中で、地域のコミュニティを維持・発展させるため、地域と大学との連携など知の蓄積・連携等を通じた自立的な地域づくりの推進などの方針を示している。

地方の私立大学は、地域社会に貢献するための教育研究活動を活性化し、地域社会の再生・発展に不可欠な存在となるよう、自ら努力をする必要がある。その上で、そのような自己努力をしている大学を支援する仕組みが強化され、適切に実行されなければならない。

(崎谷康文)

学長の活動（平成24年7月～12月）

［随筆・評論等］

青森大学ホームページの学長ブログ

随想「大空を見上げて」

第４回「水田の風景」第５回「ねぶたの夏」第６回「国立劇場の夏を過ぎて」

第７回「大学祭を終えて」第８回「能を楽しむ」第９回「師走の光景」

評論「学びの温故知新」

第３回「芸術と学問」第４回「文化と教育」第５回「『学びのすすめ』のすすめ」

第６回「ゆとりの復活の誤算」第７回「過度の受験競争の弊害という幻想」

第８回「平成１５年の学習指導要領の手直し」

「教育プロ」（株式会社 ERP 発行）掲載の「時評」

「武道の必修化と柔道」（平成 24 年７月 3 日号）「経験から学ぶか、歴史から学ぶか」（平成 24 年８月 28 日号）「地域とともに生きる大学」（平成 24 年 10 月 2 日号）「いじめ問題を考える」（平成 24 年 11 月 20 日号）

［講師等］

サロン土あおもり１１月例会（講演「日本の無形文化遺産―どう守りどう育てるか」１１月３０日）

青森大学オープンカレッジ市民大学（講演「生涯学習社会における学びの意義」１２月７日）

国立劇場おきなわ設立時の状況についての座談会（国立劇場おきなわ運営財団１２月２６日）

［社会的活動等］

公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事（理事会１１月２９日）

公益財団法人文化財建造物保存技術協会東日本大震災等被災文化財建造物保存修理支援委員会委員

（委員会８月２７日、委員会９月２４日）

公益財団法人がん研究会評議員（評議員会６月１５日、評議員会１１月２０日、評議員会１２月４日）

姫路城大天守保存修理検討会姫路城大天守登閣者対策部会（姫路市）会長（部会８月２８日）

日本イコモス国内委員会会員（総会１２月１５日）

日本イコモス国内委員会監事（理事会９月８日、理事会１２月１５日）

日本イコモス国内委員会第８委員会委員長（委員会８月２７日）

日本イコモス国内委員会世界遺産特別委員会委員（特別委員会９月８日）

全学の動向

外部資金の獲得状況

科研費獲得状況（平成 24(2012)年度）

研究者	研究テーマ	補助金額	助成区分
（研究代表者） 経営学科 石塚ゆかり 専任講師	日韓の苦情とクレームに関する社会言語学研究―ビジネス現場と医療機関を中心に―　（前年度からの継続研究）	1,040 千円	若手研究(B)
（研究代表者） 社会学科 澁谷泰秀　教授	高齢者の社会情動的選択性とリスク志向性が及ぼす生活の質への影響	1,690 千円	基盤研究(C)
（研究代表者） 社会学科 柏谷 至　教授 （研究分担者） 澁谷泰秀　教授 中村和生　准教授 佐々木てる 准教授	環境配慮行動委おける文化的フレームと意志決定モデルとの統合的アプローチ	2,340 千円	基盤研究(C)

（研究分担者） 社会学科 澁谷泰秀　教授	郵送・インターネットによる実験的な履歴調査の実施（前年度からの継続分）	863 千円	奈良大学 （吉村治正） 基盤研究(C)
（研究分担者） 社会学科 澁谷泰秀　教授	社会情動的選択性から見た高齢者のソーシャルネットワークに関する研究	1,014 千円	秋田県立大学 （渡部諭） 基盤研究(C)
（研究分担者） 社会学科 柏谷 至　教授	原発事故に伴う広域避難と支援の社会学―「転換後」の社会像と行き方モデルの探究	195 千円	日本大学 （後藤範章） 基盤研究 (C)
（研究分担者） 社会学科 中村和生 准教授	発達障害の療育現場における相互行為の構造：エスノメソドロジー・会話分析による解明	156 千円	三重県立看護大学 （浦野茂） 基盤研究(C)
計	7 件	7,298 千円	

その他の研究助成金（平成24年(2012)年度）

研究者	研究テーマ	助成額	交付機関等
（研究代表者） 栗原堅三 特任教授	うま味、アミノ酸を中心とした味覚研究に関する調査	1,000千円	(株)味の素
（研究代表者） 薬学科 上田條二　教授	ドジョウの活性成分を明らかにすると共に活性を評価	600 千円	(株)竹田測量設計
（研究代表者） ソフトウェア情報学科 小久保　温　准教授	インターネット社会調査と多様化する情報端末―スマートフォン、タブレット端末時代の社会調査に向けて	600 千円	財団法人電気通信普及財団
（研究代表者） 社会学科 澁谷泰秀　教授	高齢者犯罪を防止するための再帰属プログラムの開発・研究	1,800 千円	公益財団法人三菱財団
（研究分担者） 社会学科 澁谷泰秀　教授 代表研究者： 秋田県立大学 （渡部諭）	振り込め詐欺被害に遭いやすい高齢者の認知バイアスの研究－社会情動的選択性理論からの認知心理学的研究－	600 千円	財団法人 三井住友財団
計	5 件	3,600 千円	

出張講義などの実施状況

平成 24 年度の出張講義は、平成 25 年 1 月 9 日現在で派遣教員は 22 名、全体の講義開講延べ数は 65 回となっている（依頼機関 は 31 機関）。

NO	依　　頼　　先	講義日	氏　名	学　科	講義テーマ
1	青森大学オープンカレッジ	4 月 13 日	藤田　均	大学院	自然の観察
2	大鰐町連合婦人会	4 月 13 日	柏谷　至	社会学科	省エネルギーのすすめ
3	青森大学オープンカレッジ	4 月 20 日	藤林　正雄	社会福祉学科	人間関係に悩まないために
4	株)医薬品情報センター	4 月 27 日	上田　條二	薬学科	漢方薬の基礎
5	青森大学オープンカレッジ	5 月 18 日	徳光　幸子	薬学科	生活習慣病の予防と治療
6	青森障害者職業センター	6 月 11 日	船木　昭夫	社会福祉学科	対人援助のためのケースカンファレンスの方法
7	公社)鉄道貨物協会青森支部	6 月 14 日	中村　郁子	薬学科	薬の上手な使い方
8	青森大学オープンカレッジ	6 月 15 日	白岩　貢	ソフトウェア情報学科	歌唱を楽しむ(春夏)
9	NPO 法人大一朝日サポート	6 月 15 日	船木　昭夫	社会福祉学科	ケースカンファレンスの方法
10	株)医薬品情報センター	6 月 15 日	上田　條二	薬学科	漢方薬の基礎 2
11	県立黒石商業高等学校	6 月 23 日	小久保　温 角田　均	ソフトウェア情報学科	VR マップの制作方法・マップデータの記述方法について
12	市立西中学校	6 月 28 日	佐藤　栄作	薬学科	大学教授になるには・・・
13	青森大学後援会宮城支部研修会	7 月 1 日	崎谷　康文	学長	これからの青森大学
14	青森大学後援会宮城支部研修会	7 月 1 日	李　孝烈	ソフトウェア情報学科	就職状況について
15	青森大学オープンカレッジ	7 月 6 日	大平　幸子	事務局長	調理実習
16	株)医薬品情報センター	7 月 13 日	上田　條二	薬学科	漢方薬の基礎 4
17	平川市役所　健康推進課予防係	7 月 17 日	藤林　正雄	社会福祉学科	自己理解・自己の感性を引き出す
18	戸山市民センター	7 月 19 日	佐藤　栄作	薬学科	高齢者とクスリについて
19	八戸市学校事務研究協議会	7 月 26 日	小久保　温	ソフトウェア情報学科	コンピュータ・ウィルスについて
20	平川市教育委員会　平賀公民館	7 月 27 日	安藤　清美	社会福祉学科	民法学の立場から福祉を考える
21	平川市役所　健康推進課予防係	7 月 31 日	藤林　正雄	社会福祉学科	価値観の多様性を知る
22	函館少年刑務所	8 月 10 日	船木　昭夫	社会福祉学科	問題解決場面への対応
23	平川市役所　健康推進課予防係	8 月 28 日	藤林　正雄	社会福祉学科	聴くスキルを身につける①・②
24	平川市役所　健康推進課予防係	9 月 4 日	藤林　正雄	社会福祉学科	聴くスキルを身につける③
25	鹿角市役所　市民部市民共動課環境生活班	9 月 5 日	藤田　均	大学院	日本の温暖化が植生に及ぼす影響
26	大館市老壮大学	9 月 12 日	佐藤　栄作	薬学科	薬はなぜ効くか？

27	青森大学オープンカレッジ	9 月 14 日	佐藤　鷹敏	社会学科	人間の行動の成り立ちと初期の学習
28	県立北斗高等学校通信制の課程	9 月 19 日	熊崎　隆	薬学科	薬剤師の仕事内容と薬学部に合格するためには
29	平川市役所　健康推進課予防係	9 月 18 日	藤林　正雄	社会福祉学科	聴くスキルを身につける④
30	県立黒石商業高等学校	9 月 18 日	小久保　温 角田　均	ソフトウェア情報学科	OctPhotoVR マップ「髙橋家」の制作について 「髙橋家」マップデータの記述設定について
31	社会法人　つくし会	9 月 20 日	藤林　正雄	社会福祉学科	人間関係とストレス
32	平内町民生委員児童委員協議会	9 月 20 日	菅　勝彦	社会学科	先人に学ぶ「年をとる技術」
33	社会法人　つくし会	9 月 21 日	藤林　正雄	社会福祉学科	人間関係とストレス
34	青森大学オープンカレッジ	9 月 21 日	戸塚　茂雄	経営学科	過剰富裕化と過剰労働時間
35	株）医薬品情報センター	9 月 21 日	上田　條二	薬学科	漢方薬の基礎 5
36	青森障害者職業センター	9 月 25 日	船木　昭夫	社会福祉学科	SST 研修
37	平川市役所　健康推進課予防係	10 月 9 日	藤林　正雄	社会福祉学科	改めて聴くことの大切さを理解する
38	青森大学オープンカレッジ	10 月 12 日	白岩　貢	ソフトウェア情報学科	歌唱を楽しむ（秋冬）
39	青森大学オープンカレッジ	10 月 19 日	久慈　きみ代	社会学科	源氏物語の時代背景
40	つがる市稲垣公民館	10 月 23 日	雨森　輝昌	社会福祉学科	中高年の体力・健康づくり運動の実際
41	平内町社会福祉協議会	11 月 1 日	菅　勝彦	社会学科	先人に学ぶ「老いの生き方」
42	秋田市立御所野学院高等学校	11 月 2 日	上田　條二	薬学科	薬と心の健康について
43	青森山田中学校	11 月 8 日	船木　昭夫	社会福祉学科	中学校の心の健康～いじめとは何か～
44	青森高校	11 月 15 日	小久保　温	ソフトウェア情報学科	未来を創る情報技術：クラウド、ビックデータ、ゲーム
45	青森大学オープンカレッジ	11 月 16 日	藤　公晴	大学院	環境問題と環境保全
46	青森大学オープンカレッジ	11 月 16 日	雨森　輝昌	社会福祉学科	シニアの健康講座
47	株）医薬品情報センター	11 月 16 日	上田　條二	薬学科	漢方薬の基礎 6
48	青森県社会福祉協議会	11 月 22 日	船木　昭夫	社会福祉学科	相談技法研修会
49	中央市民センター	11 月 22 日	中村　郁子	薬学科	薬の上手な使い方
50	呉竹幼稚園	11 月 22 日	大平　幸子	事務局長	未就園児教室（ぴよちゃん教室）

51	十和田市中央公民館	11 月 27 日	上田　條二	薬学科	身近な民間薬
52	NPO 法人子どもネットワーク・ステップ	12 月 3 日	柏谷　至	社会学科	「NPO 法人子どもネットワーク・すてっぷ」の活動を事業化する
53	県立青森中央高等学校	12 月 6 日	菅　勝彦	社会学科	おもしろメディア学
54	青森大学オープンカレッジ	12 月 7 日	崎谷　康文	学長	生涯学習社会における学びの意義
55	青森障害者職業センター	12 月 11 日	船木　昭夫	社会福祉学科	SST 研修（就労支援と個別 SST）
56	中央市民センター	12 月 12 日	中村　郁子	薬学科	薬の上手な使い方
57	鹿角市教育委員会　生涯学習課	12 月 15 日	藤林　正雄	社会福祉学科	人間関係で悩まないために
58	黒石市立六郷公民館	12 月 15 日	大平　幸子	事務局長	地産りんごの活用『医者いらずレシピ』
59	NPO 法人子どもネットワーク・ステップ	12 月 20 日	柏谷　至	社会学科	活動のバージョンアップ、これからの活動の見通しを立てる
60	弘前市立第五中学校	1 月 9 日	角田　均	ソフトウェア情報学科	ネットワーク社会で「安全」に暮らす知恵
61	中央市民センター	1 月 9 日	菅　勝彦	社会学科	先人に学ぶ「年をとる技術」
62	NPO 法人子どもネットワーク・ステップ	1 月 21 日	柏谷　至	社会学科	「NPO 法人子どもネットワーク・すてっぷ」の活動を事業化する活動を事業化するための具体案の絞り込みとその準備について
63	黒石市立六郷公民館	1 月 26 日	大平　幸子	事務局長	健康食①『骨元気レシピ』
64	中央市民センター	1 月 23 日	菅　勝彦	社会学科	先人に学ぶ「年をとる技術」
65	黒石市立六郷公民館	2 月 16 日	大平　幸子	事務局長	健康食②『血液さらさらレシピ』

［平成 24 年度秋の学位授与式が挙行される］

平成 24 年度秋卒業の学位授与式が夏休み明けの 9 月 29 日に挙行された。平成 24 年度の秋卒業生は、経営学部の留学生 16 名、社会学部の留学生 6 名・邦人 2 名（計 8 名）、そして薬学部の邦人 15 名の総勢 47 名であった。今回卒業した留学生 22 名にとっての青森大学における 4 年間の勉学は、勉学のみならず色々な経験や困難を乗り越えての卒業であった。盛田理事長の祝辞の中では、盛田理事長ご自身の中国での体験と留学生の日本での体験とのつながりについてのお話を頂き、皆さんが青森大学で学んだことは、皆さんが本国と日本の架け橋なるための礎になるものであると述べられた。崎谷学長は式辞の中で、「青森大学で学んだことを誇りに思い、学び続け、そして与えられた場所を大切にすることで、大きく成長してほしい。また、卒業して何年かしたら青森に戻ってきてほしい。」と述べ

られ、式辞を聞いていた留学生の表情には苦難を乗り越えた達成感と、「また青森に帰ってきてほしい」と言われた事の安堵感からか、微笑がひろがった。この日の学位授与式で、青森大学を卒業した学生の総数は 12,735 名となり、青森市で最も伝統のある 4 年制大学としての重みを改めて認識する機会でもあった。

［第18回図書館文化講演会を開催］

大学図書館は、大学における広範な教育・研究活動を支える重要な役割を担っている。本学図書館においても、毎年実施している文化講演会や読書感想文コンクールなどは主要な活動に位置づけられている。第18回図書館文化講演会は11月14日に図書館新館3階視聴覚室で開かれた。今回は崎谷康文学長が「柔道と私」というテーマで講演された。高校、大学、そして社会人になってからも柔道一筋に明け暮れ、講道館柔道５段位を取得。柔道の魅力や、柔道をやってよかったことなど、約80名の学生に熱っぽく語りかけ感銘を与えた。柔道の魅力について、学長は井上靖の言葉を引用し「相手との闘いであり、同時に自分との闘い。勝ち負けも成立した瞬間に消える美しさ。自分より強い者に向かって行く、必勝の精神を持つ。柔道の勝負は本来生死の問題 ― スポーツではない。真剣勝負それが根底にある」と説かれていた。最近は「武道の必修化と柔道」などの評論も公にされ、生涯スポーツとしての柔道への熱い思いを語り続けておられる。

［読書感想文コンクールに応募が殺到］

読書感想文コンクールでは、全学から83点の応募があり、審査の結果、銀賞3点、銅賞3点が入賞した。銀賞には、社会福祉学科2年菊池貴光君の「新美南吉童話集」、社会学科3年近孝義君の「海流のなかの島々」、そして社会福祉学科2年西舘翔子さんの「人間失格」が選ばれた。ともに優れた内容で、12月5日に開催された表彰式においてそれぞれ講評が読み上げられた。今回の読書感想文には硬式野球部からの応募が50点以上あり、監督の指導のもと、質の高い作品が多く寄せられその中から入賞作品も出た。図書館の本年度の主要な活動としては、一般図書の充実に力を入れ、特に震災関連の書籍などを多数取り揃えた。また、青森山田学園理事長の盛田稔先生から、郷土の歴史にかかわる貴重な書籍の寄贈を受け、図書館新館に寄贈図書コーナーを新たに設置して利用者への便宜を図っている。さらに、図書館利用活性化を掲げ、学生のみでなく全教員をも対象とした図書館利用アンケートを実施した。現在アンケート結果の分析を進めており、より利用しやすい図書館を目指し活動を続けている。

[地域貢献センターの発足にあたって]

地域貢献センターのセンター長という大任をお引き受けすることとなりました。微力ではありますが、これまでの経験も生かしながら精一杯務めさせていただきたいと思います。

地域貢献センターの事業内容等は、今後の議論を通じて具体化させていくことになりますが、個人的には 3 つほどの方向性を考えていきたいと思っています。

第 1 は、学内の地域貢献活動に関する環境の整備です。本学の学生・教職員はボランティアや各種委員・NPO 等の役員として、またゼミや実習などを通じて多様な地域貢献活動に関わっていますが、大学として支援・促進する仕組みをつくり、さらなる量的拡大と質的向上を図っていく必要があります。地域貢献センターでは、学内外からの問い合わせや相談に対応するワンストップサービスを出発点に、学内の体制整備について提案してゆきたいと考えています。

第 2 は、青森の地域性と本学の特徴を踏まえた地域貢献活動を企画し実行してゆくことです。青森には少子高齢化への対応、地場産業の育成、豊かな自然と文化的資源の活用などさまざまな地域課題があります。こうした課題の解決に向けて、青森大学ならではの方策を考え、実現させてゆくことが求められます。

第 3 は、地域貢献活動の成果を生かすことです。地域貢献活動を学生の教育に結びつけたり、活動の中から新たな研究テーマや方法論を発見したりするために、他の委員会などと連携・協力を深めていきたいと思います。また、本学の地域貢献活動を学外にアピールし、地域に貢献する青森大学としての評価を高めてゆくことも、地域貢献センターの重要な使命と考えています。

各学部のセンター員は以下の方々です。地域貢献に関する情報やアイディア、企画提案をお持ちの方は、ぜひご相談ください。

地域貢献センター・センター員 (敬称略) 経営学部（宮澤・沼田）、社会学部（柏谷・宮川）、ソフトウェア情報学部（角田）、薬学部（上田）

(柏谷至)

特任教授

著書

栗原堅三「うま味って何だろう」、岩波ジュニア新書、2012 年 1 月（書評　読売新聞、ファルマシア（日本薬学会誌）、日本生理学会誌、日本味と匂学会誌など）

総説

栗原堅三　世界が認めた umami とその作用、おいしさの科学、4 巻、21-26 ページ、2012 年 7 月

栗原堅三　世界に広がるうま味の魅力、日本味と匂学会誌、19 巻、2 号、177-188 頁、2012 年 8 月

栗原堅三　味を感じる舌のタンパク質、「生命の万能素材」ニュートン特集号 2013 年 2 月（予定）

論文

K. Osada, K. Kurihara, H. Izumi, M. Kashiwayanagi　Pyrazine analogues are active components of wolf urine that induce avoidance and freezing behaviours in mice, PLOS ONE, in press.

講演等

栗原堅三　世界に広がるうま味の魅力、うま味シンポジウム、品川コクヨ会館、2012 年 5 月 25 日

栗原堅三　‘History/safety/perception of glutamate‘ 韓国食品科学工学会、韓国太田市、2012 年 6 月 14 日

栗原堅三　「世界が第 5 番目の基本味として認めたうま味の魅力」日本薬学会東北部会ランチョンセミナー、青森大学記念ホール、2012 年 10 月 7 日

栗原堅三　「世界に広がるうま味の魅力」かわさき市民講座、川崎市生涯学習プラザ、2012 年 10 月 12 日、10 月 23 日

栗原堅三　韓国テレビのインタビュー「うま味について」2012 年 9 月 30 日、福岡

大　学　院

【日本造園学会主催日本の風景遺産目録・青森県内22箇所の選定】

報告:藤田　均・大学院研究科長

日本造園学会では“ランドスケープ遺産インベントリー（目録）づくり”を進めている。これは 2006 年 9 月に同学会委員会がまとめた近代ランドスケープ遺産の保全に関する目録の作成推進の提言から、設立 90 周年（2015 年）事業として全国に所在する「造園遺産」の把握と公表を行うというものである。作品としては（1）意匠された空間（庭園・公園など）、（2）生活・生業としての景観（農山漁村などの風景）及び（3）自然景観が対象で、本 2012 年度から各支部が選定主体となって動き出している。筆者は東北支部の幹事のため、急きょ青森県を1人で担当することとなった。美しい風景地を登録するというよりも「住民との関わりの深い」「残すことが担保されている」という2つの条件を充たす、22箇所の風景地の選定を行った。選定した主な風景地は次の通りである。

（1）　庭園等作品としての空間…弘前公園、藤田記念庭園、三内丸山の遺跡群等

（2）　文化的景観、生業としての景観…小牧野環状列石、種差海岸草原、艫作崎段々畑等

（3）　自然景観…十和田湖、奥入瀬、白神山地世界自然遺産など

写真　（左）

小牧野の環状列石

新川の両岸に広がる田園集落を見下ろす展望地点があって、その集落住民の祭事がここでなされたことを伺わせる広場が環状列石の土留めにより作られている。（世界遺産登録候補地の1つ）

写真　（左）

十和田湖中湖を囲む御倉半島のカルデラ壁

国立公園の第一種特別地域として厳正に保護されている十和田湖は、世界で2箇所しかない二重式カルデラ湖で、周りはブナ、キタゴヨウマツなどの原生林に囲まれている。

［大学祭における自然教室］

＜子ども相手の自然教室の開催＞10月13日、14日の2日間、本大学正門入り口の大学院B棟中庭においてテントを建て、大学祭参加活動としての在学生及び青森大学自然学校修了社会人による『子どもの自然遊び教室』を実施した。雨の合間に、子どもたち及びその保護者の方も合わせて20数名の参加があり、コスモスの花の中にあるおしべ状の黄色い筒状花の集まり（種子を作る花々）と周りのピンク色の花びら状の舌状花（花弁1枚に見えているのは1輪の合弁花で、雄蘂も雌蕊も退化しており、種子を作らない花）の違いなど、自然の見方を熱心に学んでもらった。

写真（左）：コスモスの花について説明している大学院生の様子。

大学図書館の伊藤英俊氏から寄贈頂いた落花生の地上部と子房部が地下に潜ってピーナッツの実がなっている様子。実のでき方の説明用教材。

［蛍が丘幼稚園における恒例の自然教室］

11月28日、これまで大学院生の自然環境教育指導法マスターのためと、園児の自然体験活動教育のために青森大学附属蛍が丘幼稚園と共同で続けていた恒例の自然教室（大学院廃校に伴い最終回となる。）を、4歳児を対象に、蛍が丘幼稚園の協力の下、同幼稚園前の公園広場で行った。

『冬に備える動植物』というタイトルで、園児に動植物が冬に備えてどんな工夫をしているかについて、次の5つの問題を出し、クイズ形式で行った。①冬芽の力、②サクラとアジサイの冬芽探し、③ドウダンツツジの葉が赤くなるしくみと理由、④ヨモギの葉と根の秘密及び⑤ワラジムシの冬の過ごし方である。 雪に薄く覆われた公園の中、園児たちは生き生きとクイズに挑戦し、自然を満喫してくれた。

写真（左）

4歳児担当の根井華子教諭とその園児たちがソメイヨシノの冬芽探しをしているところである。

［地域活動］
藤田　均　青森県：青森県公共事業評価等審議委員会委員、下北半島ニホンザル保護管理対策協議会会長
青森県教育委員会：あすなろマスターカレッジ企画委員・検討委員、あおもり体験活動推進会議会長（なお、11月30日、子どもの体験活動を広げるための情報交換会が青森県教育委員会主催で、県総合社会教育センターで開かれ、藤田は会長として県内市町村教育委員会職員を前に「子どもたちに自然体験活動を」というタイトルで講演を行った。）
林野庁東北森林管理局：地域森林計画策定検討会委員
籐　公晴　青森県：環境審議会委員

[学会活動]
藤 公晴　9 月 30 日 「環境思想•第 1 回教育研究大会」環境教育特別セミナー「青森の自然を書（描）く―ネイチャーライティングの授業への導入の可能性をさぐる―」 総合討論コーディネーター（会場：弘前大学）

[研究活動]
藤 公晴　(独)科学技術振興機構より依頼の研究 社会技術研究開発事業（平成２４年度前期まで）
地域間連携による地域エネルギーと地域ファイナンスの統合的活用政策及びその事業化研究（代表：舩橋 晴俊）

[社会貢献]
藤 公晴　11 月 16 日　オープンカレッジ講師　環境問題と環境保全

[海外調査]
藤 公晴　10 月 28 日～11 月 13 日　諸外国の青少年教育施設等調査　米国農務省等における４−H の国立青少年施設、青少年行政等に関する現地調査（Washington D.C. New York）Association of Public and Land-Grant Universities, Cornell University Cooperative, Extension Administration（Ithaca,NY）,NYS Agricultural Experiment Station（Geneva,NY）

[著書]
藤 公晴　書籍名：Think Biospherically, Act Bioregionally（2013 年４月出版予定）（編者:Dr. Cheryll A Glotfelty University of Nevada）の中、In Transpacific Fraternity: Peter Berg’s planet drumming in Japan.を分担執筆し、原稿提出済み。

経　営　学　部

平成 24 年度「ＩＴパスポート試験」合格者１名、『基本情報技術者試験』合格者は３名。
（主催：情報処理推進機構）

10 月 14 日に行われた『ＩＴパスポート試験』において１名（2 年生：阿部勝也君）の合格者を出すことができた。試験は例年、4 月と 10 月の年２回実施されていたが、平成 23 年 11 月から随時開催されるようになり、受験生は自分の都合の良い日時と会場を選択できるようになった。これに伴い試験方式も、従来のマークシート方式からコンピュータを利用する CBT（Computer Based Testing）方式に変わり、 試験終了時には結果がすぐに確認できるようになった。試験の申し込みから結果確認までの期間が大幅に短縮され、学生にとっては身近に取得可能な国家資格である。

さらに、10 月 21 日に行われた平成 24 年度秋期『基本情報技術者試験』では、３名（いずれも３年生：工藤遼君、高橋龍之介君、盛恭兵君）が見事、合格を果たした。この試験は、情報産業界では以

前から重要視されている国家試験であり、現在はシステム開発者・利用者の双方を想定した試験となっている。プログラマからシステムエンジニアへの登竜門とされ、就職活動にはたいへん有利な資格である。学生たちの真摯な取り組みの成果は、今回の結果と平成２１年で最後となった『初級システムアドミニストレーター』の 合格者総数１４名を加えて、８年連続、合計２７名という合格実績に表れている。今後も、広く学生にチャレンジを呼びかけながら、学生自らが目標に向かって積極的な姿勢で臨むように、これまでの対策講習会で得た多くの経験を活かした指導を行っていく考えである。

（文責：石川祥三　中田和一）

【日本商工会議所主催　簿記検定試験】

平成 24 年 11 月 18 日（日）に実施された第 132 回日本商工会議所簿記検定試験において、2 級合格者 2 名（今年度通算 5 名）、3 級合格者 2 名（今年度通算 3 名）の 4 名（今年度通算 8 名）が見事合格した。

・2 級合格者：経 24058 三浦雅斗、経 23015 伊藤拓哉

・3 級合格者：経 24013 北川美里、経 22089 藤本和貴

中でも 2 級合格者の２年生伊藤拓哉君は 88 点の高得点で見事合格した。早くも 1 級の取得に向けての意気込みを見せていた。年度内にあと 1 回の検定試験が残されており、平成 24 年度内には 2 級合格者を通算 10 人以上の合格者を目標としている。近年一般学生が減少傾向にあり検定試験で成果をあげるには厳しい環境にあるが、今後大学理念に基づいた親身になっての個々の指導を徹底し、「簿記検定の青森大学」というイメージ・アップを少しずつでも広めていければと考えている。

（文責：恵良二郎）

【中国語検定試験】

高橋　龍之介　君（3 年）が、中国語検定試験（３級）に合格しました。

多くの学生諸君がチャレンジしてくれることを期待しています。

【経営、社会学部合同グループ内定報告会（第 1 回目）】

平成２４年 12 月１９日に青森大学 350 教室および各教室で、４年生 14 名の内定者（青森県警、日本郵政、さくらの百貨店、青森県信用保証協会、東奥信金等）が 3 年生に対して具体的にどのようにして内定を勝ち取ったかの報告会を実施。3 年生にとっては今度の 4 年生の経験に基づく話を聞き大きな刺激になったと思われる。今後の就活に役立つものと期待している。様子は当日 18:00 にＡＴＶにて放映された。

(文責：恵良二郎)

【人物往来】（文責　戸塚茂雄）

塚本新治教授が、8 月退職されました。1973 年の赴任以来 39 年の長きにわたって本学の、特にスポーツの発展に貢献されましたことを感謝いたします(戸塚茂雄)。

【外部研究助成・事業助成】

井上　隆

助成機関：あおもり県民政策ネット(青森県庁企画政策部)

受託事務局：NPO 法人ひろだいリサーチ(佐々木､井上他)

調査研究事業費補助金：40 万円

調査研究テーマ：「東日本大震災における八戸圏域企業の行動」

【著書、論文、研究ノート、評論・書評、翻訳、寄稿、調査報告書など】

井上隆　井上隆・佐々木純一郎･谷口清和･竹ヶ原公共著『東日本大震災における八戸圏域企業の行動』，「製造業」･「宿泊業」分担執筆，NPO 法人ひろだいリサーチより近刊.

恵良二郎　「変動する外国為替に関する損益の概念についての考察」青森大学・短期大学『研究紀要』第 35 巻第 1 号（通巻 112 号）pp23～36.　2012 年 7 月.

恵良二郎「外国為替相場とその決定理論――3 つの学説史から――」青森大学・短期大学『研究紀要』第 35 巻第 2 号（通巻 113 号）pp81～118. 2012 年 11 月.

沼田　郷　書評　川上桃子著『圧縮された産業発展』名古屋大学出版会（『研究紀要』青森大学・青森短期大学学術研究会，第 35 巻　第２号，2012 年 11 月.

沼田　郷　東奥日報社　「ニュース力アップ」　2012 年 4 月より隔週連載.

【学会報告、学会活動など】

恵良二郎　10 月　日本貿易学会第 2 回東部会報告会 2012 年 10 月 6 日（於明治大学）

11 月　国際商取引学会 2012 年全国大会及びシンポジウム「国際商取引における不正～ビジネス関係者の留意事項」2012 年 11 月 3 日～4 日（於神戸大学）

中田吉光　平成 24 年 12 月 1 日　「第 16 回日本レーザー・スポーツ医科学学会」においてシンポジウム：運動器疼痛対策と運動連鎖を応用としたスポーツ外傷・障害からの復帰、予防の取り組み「男子新体操の現状と取り組み」を発表する（於：慶應義塾大学日吉キャンパススポーツ棟）

沼田郷　「台湾電子産業の発展」カメラ産業研究会，日本大学経済学部，2012 年 10 月 13 日。

多国籍企業学会監事（2011 年 7 月～2013 年 7 月）

【識者インタビュー】

赤坂道俊　平成 24 年７月２日「識者インタビュー：求められる経営革新－内発的新興に力を」『東奥日報』平成 24 年 7 月 2 日、朝刊。

【社会活動・地域貢献・講演など】]平成 24 年 7 月～12 月

戸塚茂雄　2012 年 9 月 21 日　青森大学オープンカレッジ「過剰富裕化と過剰労働時間」

赤坂道俊　平成 24 年７月６日　第一回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎

平成 24 年７月６日　青森県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会（会長）、於：青森県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機青森職業訓練支援センター

平成 24 年７月 20 日　第一回青森地方最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎

平成 24 年７月 31 日　第二回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎

平成 24 年８月３日　第二回青森地方最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎

平成 24 年８月８日　第三回青森地方最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎

平成 24 年８月９日　第四回青森地方最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎
平成 24 年８月 16 日　第五回青森地方最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎
平成 24 年８月 16 日　第三回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎
平成 24 年９月３日　第四回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎
平成 24 年９月 19 日　第一回産業別最低賃金検討小委員会、於：青森合同庁舎
平成 24 年９月 21 日　第二回産業別最低賃金検討小委員会、於：青森合同庁舎
平成 24 年９月 21 日　第五回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎
平成 24 年９月 24 日　第二回青森地方最低賃金産業別小委員会、於：青森合同庁舎
平成 24 年 10 月 15 日　青森県各種小売業最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎
平成 24 年 10 月 17 日　青森県電気機械器具等製造業最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎
平成 24 年 10 月 22 日　第二回青森県各種小売業最低賃金専門部会、於：青森合同庁舎
平成 24 年 10 月 22 日　第六回青森地方最低賃金審議会、於：青森合同庁舎

井上　隆　7月　青森市都市整備部、青森みなとまちづくりミーティング(第3回)、座長
青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 (7/12)
7月　青い森鉄道線、東青森・青森間筒井地区新駅設置工事、安全祈願祭、来賓参加
鉄建・藤本特定建設工事共同企業体主催，於：青森市筒井三丁目(7/14)
7月　青森市都市整備部・青森市総合都市交通対策協議会(H24年度第1回)、会長、
青森市福祉増進センター(7/18)
8月　青森市都市整備部・青森市総合都市交通対策協議会(第2回)、会長、
青森市福祉増進センター(8/24)
9月　あおもり県民政策ネット、政策ワーキング(第1回)、(財)青森地域社会研究所(9/11)
9月　法務省青森地方法務局、事務評価委員会(第1回)、委員長、青森第二合同庁舎(9/26)
9月　青森市・青森商工会議所・中心市街地活性化協議会「中心商店街にぎわい創出事業」
作業委員会(第1回)、新町パサージュ広場会議室(9/28)
10月 財務省東北財務局、財務行政モニター、再任［任期:平成26年9月30日迄］(10/1)
10月 青森市中心市街地活性化協議会「中心商店街にぎわい創出事業」打合会、
新町商店街振興組合(10/4)
10月 法務省青森地方法務局、事務評価委員会(第2回)、委員長、青森第二合同庁舎(10/10)
10月 あおもり県民政策ネット、政策ワーキング(第2回)、(財)青森地域社会研究所(10/11)
10月 法務省青森地方法務局、事務評価委員会(第3回)、委員長、青森第二合同庁舎(10/16)
10月 青森市新町商店街振興組合青年部との意見交換会、新町商店街振興組合(10/18)
11月 青森市中心市街地活性化協議会「中心商店街にぎわい創出事業」WS．アウガ5F(11/2)
11月 あおもり政策ネット・東日本大震災1年半・復旧復興現地調査、調査対象：星野リゾート青森屋、桃川酒造、三菱製紙八戸工場、北日本造船、マルヨ水産(11/15～16)
11月 青森市都市整備部・青森市総合都市交通対策協議会(第3回)、会長、
青森市福祉増進センター(11/22)
11月 法務省青森地方法務局、事務評価委員会(第4回)、委員長、青森第二合同庁舎(11/27)
11月 青森市中心市街地活性化協議会「中心商店街にぎわい創出事業」研究進捗報告会、
新町パサージュ広場会議室(11/28)

12月 あおもり政策ネット･東日本大震災1年半･復旧復興現地調査(第2回)、調査対象：八戸シーガルビュー、武輪水産、三井金属八戸精錬所(12/ 7)

恵良二郎　6 月　子供達のキャリア教育を考えるフォーラム「熟議」の実施

青森中央学院大学学術交流会館 2 階大講堂

主催：文部科学省、共催：青森県教育委員会

学校、家庭、地域、企業、ＮＰＯ等との連携協働による「地域ぐるみの教育」が一層重要な課題となっている。基調講演後テーマ毎にグループ別討論とグループ別発表が行われた。

12 月　業界研究会の実施　青森大学 350 教室（第 5 回目）

経営学部、社会学部の 3 年生を対象に実施された。今回の参加企業は東和電材（株)、老人福祉施設カトレア、みちのく銀行の 3 社が参加。中でもみちのく銀行の岩澤氏からは「弘前大や公立大も皆さんの競争相手です。是非頑張って下さい」との話があり、3 年生からは活発な意見が出ていた。

田村早苗　７月　農林水産省独立行政法人評価委員会林野分科会、専門委員、東京

８月　青森市横内川水道水源林保護審議会、委員、青森市

青森県公共事業再評価等委員会、委員、青森市

９月　青森県公共事業再評価等委員会、委員、青森市

10 月　青森県公共事業再評価等委員会、委員、青森市

11 月　秋田県森林組合連合会大会、講演、秋田市

12 月　青森県内水面漁場管理委員会、委員、青森市（12/4）

青森県地方港湾審議会、委員、青森市、

青森県内水面漁場管理委員会、委員、青森市（12/19）

青森県森林審議会、委員、青森市

中田吉光 ・平成２４年 5 月～10 月（月一平均計 6 回）　青森市立野内小学校クラブ活動（ダンス）講師・実技指導（学生補助）

・平成２４年 11 月　ＪＡＬ機内誌（SKYWARD）見開き 3 ページ掲載（国内外 411 万人に読まれている）

・平成 24 年 7 月 11 日　テレビ朝日、「マツコ＆有吉の怒り新党」の番組において、『新・３大「青森大学・男子新体操部の演技」』として紹介

・平成 24 年 9 月 1 日　リクルートカレッジマネージメント第 176 号に新体操部が紹介

・平成 24 年 11 月 2・16 日　新体操部がＴＢＳ中居正弘の「金スマ」に出演（共に 16 万人視聴する）

・平成 24 年 12 月 9 日　新体操部が「北上アーティスティックフェスタ 2012」で演技披露

・平成 24 年 12 月 25 日　新体操部がＴＢＳ「火曜曲」に生出演

沼田　郷　・東日本大震災支援活動　代表顧問

・9 月　青森大学大学祭　パネル展示「東日本大震災支援活動の広報と被災地の現状（現地調査から見えてきたもの)」（沼田ゼミ)。

・9 月～2013 年２月　にぎわい創出事業（青森市商店街活性化事業）沼田ゼミ。

・11 月　青森市公共事業再評価委員会（平成 24 年 11 月～平成 26 年 11 月)，青森市役所議会棟。

社 会 学 部

社会学科・社会福祉学科

[青森ねぶたをテーマに研究報告会を開催]

7 月 22 日（日）、社会学部社会学科・2 年佐々木ゼミの 2012 年度前期・研究報告会が、「ねぶたの家ワ・ラッセ」にて行われた。報告会では、「青森ねぶたを考える」のテーマのもと、佐々木ゼミの学生 12 名が班ごとに報告を行った。報告テーマは、(1)「ねぶた」と「立佞武多」の比較、(2)ワ・ラッセについて、(3)ねぶたポスターについて、(4)名人と呼ばれるねぶた師について、(5)ねぶた師の後継者問題について、などである。ねぶたを含めた祭りについて研究している青森短期大学の野崎教授をお招きし、活発な議論が交わされた。一般の方の参加もあり、充実した研究報告会となった。

[平成24年度統計グラフ全国コンクールに作品入選]

社会学科 2 年生の鈴木ゼミ生らが製作した「電気自動車 (EV) の今とこれから～大学生に聞いてみた」が統計グラフ全国コンクール（パソコン統計グラフの部）において佳作に入選した。また青森県コンクールでは、「再生エネルギー全量買い取り制度で…増えるか？太陽光・風力発電」も佳作に入選した。

【統計グラフ全国コンクール（パソコン統計グラフの部）】
表題：「電気自動車(EV）の今とこれから～大学生に聞いてみた」
製作学生：宮本康佑、赤石祐介、阿部泰昴、一戸佑成、種市港
成績：佳作（全国）

【統計グラフ青森県コンクール（パソコン統計グラフの部）】
表題：「再生エネルギー全量買い取り制度で…増えるか？太陽光・風力発電」
製作学生：小笠原智哉、堀合健央、高谷祐介、阿部宏次郎、石川大湖
成績：佳作（青森県）

[社会学部スポーツ大会結果]

10 月 24 日(水)、社会学部スポーツ大会を開催した。社会・社会福祉両学科の 1～4 年ゼミから計 20 チームが参加して、トーナメント方式のバレーボール競技で優勝を争った。(齋藤直人)

【結果・順位】　優勝　3 年長内ゼミ　　準優勝　1 年森ゼミ　　3 位　2 年林ゼミ・4 年工藤ゼミ

[福祉現場実習を実施 (介護福祉士)]

平成 24 年度の介護実習が下記の通り行われ、無事に終了した。介護実習 II (2 年生) は約 3 週間、介護実習 III (3 年生) は約 6 週間にわたり、様々な現場で高齢者や障害者等の要介護者に接し、学内の講義・演習だけでは得ることのできない、介護福祉士に必要な知識や技術を学んできた。

〔介護実習Ⅲ〕 履修学年：3 年生　　履修者数：8 名
実習期間：平成 24 年 6 月 4 日(月)～7 月 11 日(水)のうち、28 日間
実習施設：介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障害者支援施設、救護施設

〔介護実習Ⅱ〕 履修学年：2 年生　　履修者数：8 名
実習期間：平成 24 年 10 月 29 日(月)～11 月 17 日(土)のうち、16 日間
実習施設：介護老人保健施設、障害者支援施設、救護施設

(宮川愛子)

[精神保健福祉援助現場実習が終了]

平成 24 年度精神保健福祉援助実習（現場実習）が、11 月に終了しました。履修学生 9 名中 7 名が完了し、2 名は体調不良のため中止し、来年度再チャレンジする予定である。これからは、実習報告書作成と実習報告会があり、履修学生は最後まで頑張る気概でいる。

[グループ内定報告会を実施]

11 月 7 日(水) 5 時間目 3 号館 2 階において、内定のとれた 4 年生 7 名が社会学部 3 年生に対してどのようにして内定をとったかを紹介してもらう報告会を実施した。3 年生を希望職種等でグループ分けし少人数で報告会をするという、新しい試みである。4 年生の具体的な経験談は様々な点において役にたち、刺激になったのではないかと思われる。3 年生からも積極的に質問が寄せられ、充実した報告会になった。

12 月 19 日(水) の 5 時間目には、経営・社会学部で同様のグループ内定報告会を実施し、4 年生 14 名の内定者 (青森県警、日本郵政、岩手生協、さくら野百貨店、紅屋商事、東奥信用金庫など) から報告してもらった。なお、報道関係では ATV が取材に来て、当日の夕方のニュース番組で本学の内定報告会を簡単に紹介してくれた。東奥日報も、25 日朝刊に写真付きで報道してくれた。 (佐藤豊)

[青森中央高校と高大連携の授業を実施]

11 月～12 月にかけて、青森中央高校の総合授業「あすなろ学」に、社会学部からは佐々木が参加した。これは高校 3 年生が一年間の自由研究や実習体験で学んだことを、最終的に全校生徒や来賓を前に報告するものである。本学からは薬学部天内先生とソフトウエア学部の石田先生も参加され、パワーポイントの説明を含め、プレゼンテーションの指導を行った (全 7 回、14 時間)。12 月には県知事の前にて報告、さらに全校生徒の前での報告会が行われ、高校生らしい素晴らしいものとなった。この高大連携に関しては今後継続的に行っていく予定である。 (佐々木てる)

[第五回業界研究会を実施]

12 月 5 日(水)の 5 時間目に経営学部と社会学部 3 年生対象の業界研究会 (今回で 5 回目) を本学の 350 教室にて実施した。今回の参加企業・担当者は、東和電材(株)の石沢秀光総務部長、老人保健施設カトレアの中井堅司副施設長 (本学卒業生)、みちのく銀行岩澤直樹人事部主任の 3 人である。岩澤氏からは、「弘前大や公立大、青森中央学院大もみな皆さんの競争相手です。是非頑張ってください」との話があった。フロアの 3 年生からは質問も比較的よく出ていて無事終了した。 (佐藤豊)

[「選挙へGO!!」選挙啓発イベントを実施]

12 月 11 日(火)、若者の投票率向上を目的に各種活動を展開している学生団体「選挙へ GO!!」が、衆議院議員選挙への投票を呼びかけるための啓発活動を行った。(財)明るいせんきょ推進協会のキャラクター「めいすいくん」の着ぐるみも登場し、学生ホールや学生食堂・5 号館 1 階などで、投票日時・期日前投票の場所などを記載したビラを配布した。

「選挙へ GO!!」は、社会学科 4 年阿保朝隆君が副代表を務めており、本年度の「第 7 回マニフェス

ト大賞」市民部門優秀マニフェスト推進賞を受賞するなど、活動が全国的にも高く評価されている。今回のイベントでは「選挙へ GO!!」メンバーのほかに、社会学科・経営学科の学生など約 10 名が参加した。 (柏谷至)

[教職を目指す学生･高校で授業参観]

来年度の教育実習に向けて後期「地理歴史科教育法 II」を履修中の 3 年生を対象に、12 月 12 日（水）青森南高校にて「授業参観」を実施した。

参加者は、江刺家祥平・兼平翔・筒井一樹・中沢翔馬・田中匠瑛の 5 名で、青森南高校 2 年 3 組の世界史 A の授業を参観。授業担当の張間亮先生の事前指導の後、教室に移動し、熱心に教授法や生徒の活動を観察、来年度の教育実習に向けて自信を深めることができた。

青森南高校の協力で実施できたこの企画を通じて、教師の道を目指す青大生がひとりでも多く育ってくれることを期待したい。 (笠島明)

[社会福祉学科国家試験対策委員会より]

社会福祉学科で国家試験受験資格を取得する 4 年生が受験する今年度の国家試験は、社会福祉士が平成 25 年 1 月 26 日青森市において、精神保健福祉士が平成 25 年 1 月 25 日～26 日仙台市においてそれぞれ行われる。合格率の向上に向け、今年度は前期後期を合わせ 5 回の模擬試験と全国統一模擬試験を実施するとともに、模試の成績をもとに個別指導をおこなった。また、後期は学生が自主的に勉強できるよう教室を確保した。1 月 24 日には国家試験直前オリエンテーション (激励会) を行う予定である。昨年度以上の合格者が出ることを期待したい。 (藤林正雄)

［ 学術論文・著書 ］ (五十音順)

佐々木てる (監訳) 2012 『グローバリゼーション事典』明石書店.

佐藤　豊　　2012 『ドライデン『平信徒の宗教』と『メダル』－近代イギリス史の詩と政治』彩流社.

澁谷泰秀・渡部諭 2012「高齢者における自己効力と詐欺犯罪被害傾向及び生活の質との関連性：高齢者の未来展望からの示唆」青森大学・青森短期大学研究紀要 35:181-202.

Watanabe, S. & Shibutani, H. 2012 "Interactions between Risky Choice Framing Effect and Risk-seeking Propensity", 秋田県立大学総合科学研究彙報 13:9-20.

水川喜文・中村和生 (監訳) 2012 マイケル・リンチ『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』勁草書房.

［ 学会発表など ］ (五十音順)

柏谷　至　　「情報通信技術と大学の地域貢献～社会学研究者から見た可能性～」青森大学学術研究会 研究発表大会, 2012年7月25日.

佐々木てる　「在日コリアンの社会学：ネーションの脱構築に向けて」青森大学学術研究会　研究発表大会, 2012年7月25日.

佐藤　豊　　「ジョン・ドライデン『雌鹿と豹』（1687年）を読む－第一部の「化体説」(transubstantiation) をめぐって－」日本比較文化学会 関東・東北支部合同大会, 2012年12月1日, 東北福祉大学.

渡部諭・澁谷泰秀「高齢者の詐欺被害傾向と未来展望」日本心理学会第76回大会, 2012年9月11日, 専修大学.

渡部諭・澁谷泰秀「高齢者の詐欺被害傾向と未来展望の検討」日本行動計量学会第40回大会, 2012年9月16日，新潟県立大学.

澁谷泰秀・渡部諭 2012「高齢者における詐欺被害傾向と未来展望の関連性」日本認知科学会第29回大会, 2012年12月13日，東北大学.

中村和生　「ポスト分析的エスノメソドロジーの可能性」エスノメソドロジー&会話分析研究会 秋の例会, 2012年11月1日，北星学園大学.

中村和生　「マイケル・リンチ『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』合評会」に訳者代表として参加。社会学互助会（酒井泰斗主催), 2012年12月22日，東京大学. 評者：伊勢田哲治(科学哲学)・立石佑二 (科学社会学／環境社会学).

［ 報告書・書評・寄稿など ］ (五十音順)

柏谷　至　「書評 『脱原発の市民戦略』 上岡直見・岡将男著」『環境科学会誌』 25(5):397-8, (社)環境科学会.

久慈きみ代　『東北近代文学辞典』勉誠社, 「寺山修司」「福井緑」「渡辺金次郎」を担当.

久慈きみ代　「寺山文学の源泉—少年ジャーナリスト—」『別冊太陽 寺山修司』平凡社, 所収.

久慈きみ代　「少年編集者寺山修司」世田谷文学館「帰ってきた寺山修司」展図録に所収.

［ 出張講義・講演など ］ (五十音順)

柏谷　至　ワークショップ「明推協活動における“協働”を考える～何を・誰と・どうやってコラボするか～」(財)明るい選挙推進協会「地域コミュニティフォーラム (北海道・東北ブロック)」2012年10月17日，札幌市.

柏谷　至　「環境にやさしいエネルギーを私たちの手で!～市民エネルギー事業入門～」鹿角市「第1回再生可能エネルギー学習会」第1回 (講演) 2012年10月21日，第2回 (ワークショップ) 10月31日.

柏谷　至　「私達の活動･未来予想図ワークショップ」NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ スタッフ研修会, 2012年12月3日・20日，五所川原市.

久慈きみ代　「源氏物語の時代背景」青森大学オープンカレッジ市民講座, 2012年10月19日.

久慈きみ代　「孤独な少年ジャーナリスト寺山修司」寺山修司市民大学教養学科 第3回 (三沢市寺山修司記念館), 2012年11月3日.

菅　勝彦　「精神の風を吹き込むには…」風間浦村学事研究会, 2012年7月31日.

菅　勝彦　「おもしろメディア学」青森大学出張講義，青森中央高校, 2012年12月6日.

菅　勝彦　「先人に学ぶ老いの生き方」青森大学出張講義，平内町民生委員協議会研修会, 2012年10月.

藤林正雄　平川市「傾聴ボランティア養成講座6回シリーズ」講師 (自殺対策), 7月17日・31日、8月28日、9月4日・18日、10月9日

藤林正雄　「人間関係で悩まないために」(自殺対策を含め) 鹿角市教育委員会，平成24年12月15日

［ 地域活動 ］ (五十音順)

柏谷　至　弘前大学北日本新エネルギー研究所「地中熱利用普及拡大委員会」委員 (7月より)、鹿角市「地熱エネルギー等地産地消検討委員会」委員 (11月より)。

久慈きみ代　12月21日、青森古典を楽しむ会と青森大学オープンカレッジの主催で「あおもり古典を楽しむ会」第2回特別講演を開催。東京大学名誉教授・鈴木日出男先生による「夕顔の物語—源氏物語の女君—」と題された講演を、参加者120数名が聴講した。講演後は、ワン

コイン交流会も開かれ盛況であった。今回、社会学部伊東紗有里さん、西舘祥子さん、薬学部筒井志帆さんがスタッフとして参加してくれた。

久慈きみ代　青森大学オープンカレッジ市民講座「源氏物語を読む」(全10回) 2012年5月～11月。

久慈きみ代　NHK青森文化センター「じっくり読みたい源氏物語」の講座講師。2004年4月～継続中。

久慈きみ代　「あおもり古典を楽しむ会」顧問及び講師「『紫式部日記』を読む」。2011年～継続中。

齋藤　直人　東北中学校バレーボール選手権大会大会運営委員 (8月8日(水)～10日(金) 青森県新総合運動公園マエダアリーナ)。天皇杯・皇后杯全日本バレーボール東北ブロックラウンド開催地責任者 (9月8日(土)～9日(日) 青森県新総合運動公園マエダアリーナ)。東北高校新人バレーボール選手権大会大会運営委員 (平成25年2月8日(金)～10日(日) 青森県新総合運動公園マエダアリーナで開催予定)。

菅　勝彦　青森地方最低賃金審議会会長、青森地方労働審議会会長、青森労働局・労働関係紛争担当参与、青森県「攻めの農林水産業賞」選考委員、青森県医療費適正化懇談会委員、青森県中山間地域対策協議会委員、青森県NIE研究会会長、青森県NIE推進協議会副会長、日本自動車連盟青森支部交通安全実行委員会委員長、青森市特別職報酬審議会会長、青森市操車場跡地利用計画審議会会長、「新青森市史」編纂・執筆協力員。

藤林正雄　NPO法人あおもりいのちの電話研修委員長 (毎月委員会を開催、相談員養成の実施、相談員の継続研修等を運営)、青森県運営適正化委員会委員 (苦情解決部会委員として2ヶ月に1回参加)、青森県精神医療審査会委員 (2ヶ月に1回の審査会に参加及び退院請求に伴う意見聴取)、青森県精神保健福祉士協会理事 (理事選出細則作成)、青森県福祉サービス第三者評価推進員会員及び青森県社会福祉協議会福祉サービス第三者評価調査者として調査を実施。

宮川　愛子　スペシャルオリンピックス日本・青森の事務局長として、2012年12月11日、青森県知事への表敬訪問に同行した。これは「2013年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・ピョンチャン」に青森県から選手2名、コーチ1名が日本選手団に選ばれたため、2013年1月からの大会を前に抱負等を述べるものである。なお、12月22日～24日（北海道・名寄市）、1月4日～6日（長野県・白馬村）で行われる日本選手団の合宿に、青森県から選出された選手の引率ボランティアとして参加する予定となっている。

ソフトウェア情報学部

［大学祭への参加］

10月13日（土）、14（日）に実施された大学祭で、ソフトウェア情報学部では5号館において学部および各研究室（石田研、小久保研、坂井研、角田研、メネンデス研、矢萩研、和島研）の紹介、ETロボコン紹介とデモ（橋本研）、名刺作り（堀端研）、謎解きはティータイムの前に（緑川研）を出展した。

［ソフトウェア情報学部 業界セミナー開催］（李 孝烈 、石田 努）

12月6日（木）4･5時限に、第7回ソフトウェア情報学部 業界セミナーを開催しました。今年度は株式会社ラデックス、株式会社光和コンピューター、株式会社富士通システムズ･イーストより講師をお招きし、ソフトウェア業界の動向や最新の技術動向、また各社の事業内容等について講演をしていただきました。講演を通じて、学生達がソフトウェア業界への理解を深め、また進路について考える上で絶好の機会になりました。

［平成24年度「創作ゼミナール」成果発表会］（李 孝烈 、坂井 雄介）

12月15日（土）8:50～14:30に、5102教室において3年生全員による成果発表会が実施された。「創作ゼミナ

ール」は、2年次終了時に配属された研究室において、教員の指導のもとで、学生が主体的に研究テーマの設定、研究・開発、および成果発表と報告書作成を行う、本学部の主要科目の一つである。なお、学生はこれらの活動の中で得られた知見や成果物を、就職活動の中でアピールできるようにもなっている。

今年度も、制作したソフトウェア、コンテンツ、および組込みシステムやロボット設計などの多様なプレゼンテーションが行われ、予定時間を大きく超えるほどの活発な質疑応答が交わされた。

［応用情報および基本情報技術者試験合格］（李 孝烈）

本学部の伊藤匠君（2年生）が、平成24年4月15日に実施された応用情報技術者試験に合格した。平成24年3月に卒業した逢坂翔平君（現在 NECソフトウェア）に続いて、2人目の快挙となった。本試験はIT人材育成の指標である「ITスキル標準」のレベル3に位置づけられている。その対象として、「高度IT人材となるために必要な応用的知識、技能を持ち、高度IT人材としての方向性を確立した者」とされ、試験出題範囲はテクノロジ系のみならず、マネジメント系およびストラテジ系も含む幅広い分野となっている。

また、平成24年10月21日に実施された基本情報技術者試験（レベル2）に、中村開君（3年生）が合格した。本学部からの基本情報技術者試験合格者は3年連続の実績となった。

［青森県情報産業人財育成連携事業］

青森県では、これまで情報産業で活躍できる人財を育成する取り組みを続けてきた。今年度、青森県情報サービス産業協会が受託し、情報産業人財育成連携事業として、大学と企業が交流を深めることを目的に、「青森県内情報関連企業見学会」と「県内情報関連企業と県内大学との連携による出前研修」が実施されている。

青森県内情報関連企業見学会は、12月13日に実施され、青森大学と八戸工業大学が合同で、青森電子計算センター、NECソフトウェア東北青森支社を訪問した。青森大学からはソフトウェア情報学部の3年生が参加した。

県内情報関連企業と県内大学との連携による出前研修は、青森大学ではソフトウェア情報学部の3年生が参加し、富士通システムズ・イースト、およびNPO法人地域情報化モデル研究会の米田剛氏を講師として、全3回が実施される。米田氏は、IT、特にオープンデータを活用して、地域社会を活性化するビジネスに取り組んでいる。本研修は、そのようなビジネスをワークショップ形式で学生が考えて発表するというものである。第1回目が12月18日に実施され、テーマの提示とディスカッションが行なわれた。東奥日報12月19日朝刊20面でも取り上げられた。

［ETロボコン2012東北地区大会でゴールドモデル受賞］（橋本 恭能）

9月22日に岩手県盛岡市のアイーナ（いわて県民情報交流センター）で、ETロボコン2012東北地区大会が開催されました。東北各地の企業、大学、高専、高校など26チームが参加し、ロボットの走行タイムやソフトウェアシステムの設計内容で競い合いました。本学ソフトウェア情報学部から参加したチーム「青大ロボコン研」（4年田中大統 、3年遠藤嵩大、寺山皓貴、渡邊光児）は、ソフトウェア設計モデルを審査するモデル部門において、ゴールドモデル（第2位）を受賞しました。

［青森商業高校課題研究指導］（小久保 温、角田 均）

青森県高等学校教育研究商業部会との高大連携推進協議会の取り組みの一環として、青森商業高校3年生7名を対象に課題研究の指導・サポートを行った。課題研究のテーマに「青森商業高校の校舎の3次元CG化」を

設定し、8/30-10/11の期間に4回、大学での実習を実施、大学講師による指導に加えて、ソフトウェア情報学部3,4年生による実習サポートも行った。さらに12/6には講師1名と4年生2名が高校に出張して、進捗状況の確認と追加指導を実施した。年度末には成果発表会でのレビューを行う予定である。

［商業高校における講演］（小久保 温、角田 均）

青森県高等学校教育研究商業部会との高大連携推進協議会の取り組みの一環として、以下の3校で情報技術の魅力に関する講演を行なった。

9/3　黒石商業高校1年生全員 講師：角田

9/19 三沢商業高校1年生全員 講師：小久保

10/2 青森商業高校1年生全員 講師：角田

講演では「人間とコンピュータの未来」というタイトルで、スーパーコンピュータ京をはじめとするコンピュータの進化の現状と、これからの人間の生活や仕事との関わり、ゲームの進化などを動画を使いながら紹介した。

［高校生向けのインターンシップ、セミナー実施］（小久保 温、角田 均、メネンデス、和島 茂、橋本恭能）

ソフトウェア情報学部で取り組んでいる研究プロジェクトの内容をベースに、高校生に研究を体験してもらう形でインターンシップ、セミナーを実施している。ソフトウェア情報学部の3、4年生を中心に、研究プロジェクトに取り組んでいる大学生が講師および実習サポートを行うことで、プロジェクトの研究レベルの向上をはかるとともに、学生自身のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上に高い効果を上げている。

青森工業高校インターンシップ（7月4-6日）

対象：2年生17名

内容：青森市の臨海エリアの建造物の3Dモデル制作

デジタル青森の3DCGプログラミング

マインドストームによるロボット実習

青森商業高校インターンシップ（9月4-6日）

対象：1年生10名

内容：三内丸山縄文遺跡のVRマップ制作

OctPhotoVRシステムを使用

9月5日午前中に三内丸山遺跡で取材を実施

青森工業高校インターンシップ（9月25-27日）

対象：2年生8名

内容：青森市の臨海エリアの建造物の3Dモデル制作

マインドストームによるロボット実習

［社会学部との連携による「街てくショートコース」開発］

（小久保 温、メネンデス、角田 均、和島 茂、工藤 雅代（社会））

昨年度から社会学部の工藤ゼミとの共同研究として進めている、青森市の観光コンテンツ「あおもり街てく」のショートコース開発について、11/21に青森市観光課へのプレゼン・レビューを行った。

前期から夏休みの期間に4研究室の2-4年生の学生がコース周辺を取材、撮影して3Dの建物モデルを作成、3次元GIS「デジタル青森」を用いて工藤ゼミの学生がデザインしたショートコースの街並みを再現し

た。さらに工藤ゼミからコース上の観光スポットの解説文や画像データの提供を受け、それを3次元再現した街並み上に表示できるようにした。観光課でのプレゼンでは様々な指摘、リクエストが出され、コースを再現したDVD動画を作成、街てくツアーガイドのメンバーの評価・意見を集約することになった。

［黒石商業高校課題研究サポート］（小久保 温、角田 均）

昨年度、黒石商業高校で2年生を対象に、青森大学で開発したOctPhotoVRシステムを使用した、VRパノラマコンテンツの制作実習を実施した。今年度、その受講生の一部が課題研究として、黒石こみせ通りのVRパノラマコンテンツを制作している。青森大学では、実習のフォローアップとして、今年度何回か訪問して課題研究の指導をしている。9/18の訪問では、VRパノラマコンテンツにマップを複数追加したり、さまざまな情報を追加する方法を指導した。

［商業高校合同見学会］（小久保 温、角田 均）

青森県高等学校教育研究商業部会との高大連携推進協議会の事業として、県内の6商業高校による県内大学の合同見学会を実施した。9/11の青森大学の見学では、経営学部とソフトウェア情報学部による模擬授業を実施した。ソフトウェア情報学部では小久保による講演（「Amazon/Google/楽天～集合知を活用したeコマース」）と、CG系の研究室グループに所属する3,4年生による研究紹介を行い、弘前実業高校、三沢商業高校、八戸商業高校の1年生約60名が聴講した。

［青森県視覚障害者情報センター三者交歓会］（小久保 温、角田 均、和島 茂）

10月28日に開催された青森県視覚障害者情報センターの三者（利用者・奉仕員・職員）交歓会において、ソフトウェア情報学部で取り組んでいる「触れる絵画」を紹介した。「触れる絵画」は、情報技術を活用して絵画を立体化して触れるようにしたもので、視覚障害者の方たちと一緒にアートを楽しみたいと、青森県立美術館と連携してすすめてきた。今回の三者交流会では、これまでの取り組みで制作した作品のうち、触ってわかりやすいものを中心に9点の作品を展示し、鑑賞していただいた。また、取り組みの全体像について説明した。

［デジタルコンテンツサークルの立ち上げ］（小久保 温、角田 均、メネンデス、和島 茂）

ソフトウェア情報学部のCG系の研究室を中心に「デジタルコンテンツサークル」を立ち上げた。今年度前期から開始した2年生のグループによるCGプログラミングとCGコンテンツ制作の勉強会のメンバ5名を中心に構成、CGプログラミングによるゲーム開発や、アニメーションの作成などを行っている。

［東北ITコンセプト 福島GameJam in 南相馬2012］（小久保 温）

ITによる震災復興を目的とした、30時間でゲームを制作するイベント「東北ITコンセプト 福島GameJam in 南相馬2012」が8月4、5日に福島県南相馬市のゆめはっとで開催された。ゲーム開発者として小久保温が参加した。

［FUSE 01および国際ゲーム開発者協会東北］（小久保 温）

開発イベントを通じて、クリエイティビティの向上を目指し、福島県のゲーム開発者が中心になって立ち上げた、FUSEというイベントの第1回目が11月17日に、福島県郡山市の国際アート＆デザイン専門学校で開催された。内容は、ゲームエンジンenchant.jsによるゲーム開発ワークショップ。ゲーム開発者として小久保温が参加した。また、本イベントで国際ゲーム開発者協会（IGDA）の東北支部の設立がされ、小久保温も参加することになった。

［学科セミナー］

これまで、本学科教員の研究に対するアクティヴィティーの向上を目的として定期的に開催されてきた学科セミナーは、第 17 回目を迎えることになりました。今回は、平成 24 年 12 月 5 日に角田 均准教授が「3 次元地理情報システム「デジタル青森」とその周辺」のテーマで発表を行いました。この発表では、2008 年に立ち上がった 3 次元地理情報システム「デジタル青森」の研究・開発プロジェクトのこれまでの研究経過や、これらをもとにした現在の取り組みとその課題などを紹介しました。

［ラジオ出演］

和島茂、「RAB耳の新聞」、12月9日

小久保温、角田均、和島茂、三浦元太郎、「RAB ラジオチャリティーミュージックソン」、12 月 25 日

［学会発表］

石田努「拡張二進GCD法のハードウェアによる高速化について」平成24年度電気学会　電子・情報・システム部門大会（弘前大学、9月5日～7日）

角田均、三上一（青森環境管理事務所）、「3次元GISによる水質可視化の研究」、環境科学会2012年会、2012年9月13-14日、横浜国立大学

小久保温、太田大貴、土屋薫（江戸川大学）、「散策型観光のためのモバイルWebアプリケーションの開発」、平成24年度 第2回芸術科学会東北支部研究会、2012年9月29日、秋田公立美術工芸短期大学

和島茂、角田均、「被写体の形状・模様を用いた航空写真のオルソ化」、写真測量学会秋季学術講演会、2012年11月1-2日、秋田アトリオン

［研究会発表］

橋本恭能「ETロボコン2012設計モデルの改善事例」、電気学会制御研究会（2012年12月1日、関東学院大学関内メディアセンター）

橋本恭能「動的しきい値法によるライントレースロボットの走行方法の検討」、情報処理学会東北支部研究会（2012年12月10日、八戸工業大学）

［出張講義］

小久保温、「コンピュータウィルス」、八戸市学校事務研究協議会夏期研修会、平成24年7月26日、八戸市三八教育会館

小久保温、青森高校職業ガイダンス「未来を創る情報技術：クラウド、ビッグデータ、ゲーム」、11月15日、青森高校

［学外委員］

小久保温、青森県Androidアプリ事業化研修業務企画提案競技審査会審査員、9月24日、青森県庁

小久保温、青い森地域創造基金、評議員

［研究費］

委託元：青森県立美術館

委託業務名：「ペリグーの街角」立体教材製作業務委託

金額：10万円

内容： 青森県視覚障害者情報センターに寄贈された小林麗「ペリグーの街角」という絵画を立体化する。

薬　　学　　部

［薬学部から（薬学部長　熊崎　隆）］

4 月に薬学部長に就任してすでに 9 ヶ月が経ちました。現在の薬学部には多くの懸案事項がありますが、当面の問題を整理するきっかけとなったのは何と言っても文科省主催の検討会「質の高い入学者の確保に向けてのフォローアップ」からの一連の「調査」依頼でした。6 月に調査書類の提出、7 月にヒアリング調査への出席、11 月に結果伝達説明会に出席しました。調査結果には本学薬学部の今後改善すべき事項がかなり具体的記載されておりました。ここでは、現在までに講じた策及び案について記載しておきます。

まず、入学前教育をより一層の充実させることを目的として、東進ハイスクールの「入学前準備教育」を新たに採用し、すでに推薦入学・AO 入学試験合格者を対象にスタートさせております。次に、6 年制度薬学部がスタートしてから顕著になったことですが、基礎学力が無いために起こる 2 年次留年問題です。留年生の数を少しでも減少させるための策として、次年度から基礎学力向上を目的としたフォローアップ講義を対象学生を絞った形で実施することにします。また、科目の単位認定基準の教員間のバラツキを是正することが求められているため、そのための話し合いも行う必要があります。次に、卒業研究を充実させる必要に迫られ、その第一歩として今年度の研究室配属時期を 3 ヶ月繰り上げました。次年度からは配属時期を 4 年次進級早々の 5 月頃に早めることも決めています。しかし、これに付随する問題が 4～6 年次配属学生のための実習室・自習室の確保であることは明らかです。最後ですが、次年度 4 月のオリエンテーション時には全入学生に対して「プレスメントテスト」を行って入学時の成績をきちんとした数値として残すことにします。これは学生一人一人の成績を追跡するための基本資料となります。

これ以外にもやるべきことはたくさんありますが、要は入学させた学生を一人一人色々な手法で「後押し」して、最終的に一人前に育て上げた･･･という実績を出し続けることが求められているということでしょう。これが実を結ぶか否かは、ひとえに教職員、学生それぞれが「相互に信頼し合う」中で進めて行けるかどうかにかかっていると思っています。これには色んな手立ても必要となるでしょう。さらに、教員個人の負担も増えることが予想されます。しかし、年度の終わりには「よくぞ頑張ったよ、本当に･･･」とお互いに言える様、目的達成に集中できる様、学部長としても努力する積もりです。どうぞ、よろしくお願い致します。

［第 51 回日本薬学会東北支部大会開催］

10 月 7 日（土）第 51 回日本薬学会東北支部大会が本学で開催されました。同支部大会は東北地区の薬学部をもつ大学が毎年この時期に持ち回りで開くものです。青森大学での開催は今回が初めてのものとなります。特別講演では、北海道大学大学院薬学研究院 周東 智 教授に「合理的分子設計に基づく創薬化学研究」と題して講演して頂きました。

一方、公開講演会では、栗原 堅三 青森大学教授（北海道大学名誉教授）に「世界が 5 番目の基本味と認めたうま味の魅力」と題して講演して頂きました。会場となった青森大学記念ホールには多数の聴衆が集まりました。研究発表の演題数は、口頭発表 103 題、ポスター発表 45 題で、7 会場に約 300 名が参加して活発な議論が交わされました。

［サリドマイド被害者の講演会（演者：佐藤嗣道氏）］

青森大学薬学部において、12 月 12 日（水）、薬害をテーマにした講義の一端として、3 年生と 4 年生を対象に、サリドマイド被害者の講演会が開かれました。

演者の佐藤嗣道氏は、母親が妊娠時にサリドマイドを服用したので、左手が未発達でほとんど使えない状態です。右手の親指も自由には使えません。こうしたハンデイキャップを背負いながら、北海道大学薬学部を卒業後、東京医科歯科大学の大学院に進学し、学位（博士）を取得しました。現在は東京大学大学院医学系研究科薬剤疫学講座の助教を務めています。また佐藤氏は、財団法人いしずえ（サイリドマイド福祉センター）の理事長も務めています。

佐藤氏の母親は、胃の調子が悪く、近所の薬局で勧められて胃腸薬「プロパン M」（サリドマイド配合剤）を服用しました。そのとき、母親は妊娠に気づく前でした。胃の調子が悪かったのは、つわりのためだったようです。

講演では、サリドマイド薬害の歴史的経過やサリドマイド薬害のメカニズムなどを系統的に話されました。被害者自身が話をされたので、学生は食い入るように講演に聴き入っていました。学生は将来薬剤師となり、日常的に薬を扱う職業に就くので、学生にとっては非常にインパクトのある講演でした。佐藤氏も講演の中で“将来薬剤師になる皆さんが新聞などの報道で薬の副作用を知り、その薬が処方箋として薬局に出されたときは、直ちに医師に問い合わせる勇気を持ちましょう”と言われました。学生はこの講演の強烈な印象を生涯忘れないことと思います。

［県立青森中央高等学校との高大連携］　（天内　博康）

県立青森中央高等学校が “総合的な学習の時間” として実施している「あすなろ学」の実践研究発表のためのプレゼンテーション法を高大連携で実施しました。社会学部佐々木てる准教授とソフトウェア情報学部石田努准教授と共に３人が担当しました。平成２４年度の「あすなろ学」はテーマが１３あり、３学年全員がいずれかのテーマを学習しています。その発表会に向けたプレゼンテーションの仕方と PowerPoint を利用した資料の作り方を教えました。

①保育ボランティアⅠ　②ファッションデザイン　③地産地消　④福祉ボランティアⅠ　⑤保育ボランティアⅡ ⑥国際交流　⑦学校ＣＭ作成　⑧青森県の医療の現状　⑨アニメーションの作成　⑩リサイクル・ボランティア ⑪地域の現状とこれから　⑫社会をきる　⑬言語と文化

【実施内容】

・プレゼンテーションの例（青森大学の学生発表）　・ストーリーの作り方　・PowerPoint 資料の作成方法 ・プレゼンテーションの方法　・プレゼンテーションのリハーサル

【実施日】１０月１１，２５日、１１月１，８，１５，２９日、１２月６日

【発表会】１２月１３日

【参考】県立青森中央高等学校 HP　http://www.tosei-w.asn.ed.jp/~chuo/

PPファイル作成

プレゼンテーションのリハーサル

［研究論文］

Yamazaki A, Kidachi Y, Minokawa T.: "Micromere" formation and expression of endomesoderm regulatory genes during embryogenesis of the primitive echinoid Prionocidaris baculosa. (2012) *Dev Growth Differ*. **54**, 566-578.

Yamaguchi H, Akitaya T, Kidachi Y, Kamiie K, Umetsu H.: Homology modeling and structural analysis of human γ-glutamylcysteine ligase catalytic subunit for antitumor drug development. (2012) *J Biophys Chem*. **3**, 238-248

Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H.: Structural insight into the ligand-receptor interaction between glycyrrhetinic acid (GA) and the high-mobility group protein B1 (HMGB1)-DNA complex. (2012) *Bioinformation*, **8**, 1147-1153

Yamaguchi H, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H.: Homology modeling and structural analysis of human P-glycoprotein. (2012) *Bioinformation*, **8**, 1066-1074

Yamaguchi H, Akitaya T, Yu T, Kidachi Y, Kamiie K, Noshita T, Umetsu H, Ryoyama K.: Molecular docking and structural analysis of cofactor-protein interaction between NAD^+ and 11β-hydroxysteroid dehydrogenase

type 2. (2012) *J Mol Model*. **18**, 1037-1048

［学会発表］

江國仁美、野下俊朗、大内秀一、清田洋正、山田てい子：　呉茱萸に含まれるラジカル補足成分に関する研究、平成 23 年度日本農芸化学会西日本支部・中四国支部合同大会、2011 年 9 月（宮崎市）

西川耀、野下俊朗、大内秀一、木立由美、齊藤安貴子：　*Aptenia cordifolia* から単離されたネオリグナン、Apteniol 類の合成、日本農芸化学会中四国支部第 34 回支部大会、2012 年 9 月（宇部市）

白濱夏季、相内茜、大内秀一：　環状ニトロンを用いた *N*-ヒドロキシアザ-*C*-ヌクレオシド類の合成、第 51 回日本薬学会東北支部大会、2012 年 10 月（青森市）

佐藤稔浩、大内秀一、柴田美代子：　青森県立中央病院での実務実習を終えて～調剤過誤防止の工夫について～、第 51 回日本薬学会東北支部大会、2012 年 10 月（青森市）

高橋蘭、菅原彩香、大内秀一、柴田美代子：　青森県立中央病院での実務実習を終えて～糖尿病患者に対する取り組み～、第 51 回日本薬学会東北支部大会、2012 年 10 月（青森市）

上家勝芳，木立由美，野下俊朗，猟山一雄：　イソチオシアネートとグリチルレチン酸のマウスがん細胞にあたえる影響（2012 年 10 月）第 51 回日本薬学会東北支部大会

木立由美，猟山一雄：　6-(Methylsulfinyl)hexyl Isothiocyanate (6-MITC) の潰瘍性大腸炎に対する治療効果（2012 年 10 月）第 51 回日本薬学会東北支部大会

山口秀明，木立由美，上家勝芳，野下俊朗，梅津博紀，猟山一雄：　甘草成分の選択的抗がん細胞作用におけるグルタチオン抑制について（2012 年 10 月）日本薬学会フォーラム 2012：衛生薬学・環境トキシコロジー

山嵜敦子，木立由美，美濃川拓哉：　原始的ウニ・キダリスの間充織特異化メカニズム（2012 年 9 月）日本動物学会 第 83 回大会

青 森 短 期 大 学

［海外研修旅行］（短期大学部長　宍戸聡純）

本学の学生募集停止に伴い、海外研修旅行は今年度をもって終了する。その最後の海外研修旅行への思いはこれまでとは違うものがあった。そのような中、今年度の研修旅行もこれまで同様、計画したスケジュールを確実に消化し無事終了した。

例年通り、事前ガイダンスを、旅行を担当する JTB の添乗員康永さんを招いて 10 月 16 日（火）に実施。前日の 10 月 22 日（月）には学長の訓示を受け万全の態勢で研修旅行に臨んだ。

よく言われる「日本と韓国は歴史的に交流が深く隣国であるが、近くて遠い国」と言われてきたが、ここ数年はそのような過去のイメージは払拭されたと思える。しかし、ここにきて「竹島問題」が浮上して日韓の状況が思わしくない。そのよう中での研修旅行であった。

今年度の参加学生は 29 名（男子 13 名，女子 16 名）．引率は宍戸を団長に今村の二人が引率。

参加学生のうち海外渡航経験者は 1 名。ほかは海外旅行が始めてという状況であった。初めての経験の中で不安と期待が交差するものがあったようだ。

最後の海外研修を無事に終了できたのは、学生が研修の意義を理解して臨んだ姿があったからである。

［子ども専攻活動］

（子ども専攻主任　今村百合子）

○　保育実習Ⅱ又はⅢ（2年生）平成 23 年 6 月 13 日～7 月 16 日の 10 日間

・青森市、弘前市、大館市の保育所や児童館8か所で実習。

○　保育実習Ⅰ―B（2年生）　平成 23 年 8 月 15 日～9 月 3 日の 10 日間

・青森市と弘前市の乳児院や障害児施設など、4か所の施設で実習。

○　保育観察実習（1年生）　平成 23 年 8 月 22 日～8 月 26 日

・青森市14か所、五所川原市2ヵ所、弘前市1か所の保育所で実習。

○　JAF交通安全ミュージックキャラバン隊ドレミぐるーぷ公演

・呉竹幼稚園　　平成 23 年　7 月　8 日（金）10:40～11:10

・蛍ヶ丘幼稚園　　平成 23 年 10 月 21 日（金）10:40～11:10

・甲田幼稚園　　平成 23 年 11 月 11 日（金）10:30～11:00

・泉川保育園　　平成 23 年 12 月 16 日（金）10:30～11:00

歌や大型紙芝居等で交通安全啓発活動を行い、子どもたちの交通事故防止に寄与。

○　平成 23 年 12 月 2 日（金）10:00～

11:45　青森大学記念ホール第6回青森短期大学子ども専攻発表会

影絵や劇・楽器演奏・ダンスなど、授業で習得した保育技術を発表し、277 名の来場があった（左写真）。

○　平成 23 年 12 月 18 日（日）13:00～16:00：青森県警察本部主催「次世代交通安全リーダー育成事業　交通安全フォーラム」において、『JAF交通安全ミュージックキャラバン隊ドレミぐるーぷの活動をとおして』というテーマで、三浦穂乃佳、今響子の2名が意見発表。